

## 令和 5 年度 長野県学校支援チームの活動報告

## 1 第 1 回長野県学校支援チーム連絡会議

- (1) 日時 令和 5 年 8 月 31 日 (木) 15 : 15 ~ 16 : 45  
 (2) 場所 Zoom によるオンライン会議  
 (3) 参加者 (敬称略)

弁護士	倉崎 亜希子
弁護士	宮下 将吾
医師	飯田 俊穂
医師	青沼 架佐賜
学識経験者	上村 惠津子
臨床心理士	佐々木 尚子
精神保健福祉士	夏目 宏明
社会福祉士	宮寄 貞子

以上 8 名 (構成員全員参加)

## (4) 事務局報告

- ① 令和 3 年度長野県のいじめの状況について  
 ② 長野県における 20 歳未満者の自殺の現状と現在行っている対応について

## (5) 連絡会議

上記の事務局報告の 2 点について、それぞれのお立場から、事例や専門的な知見をお話しいただいた。

## 《協議の概要》

- ・ うつ的な子どもたちが多いように思う。子どもの場合は、体の症状や、学校に行かれないということが出る。
- ・ SST の事業について、講師の先生がそのときお話しいただいたことを、日常生活の中でどれだけ担任の先生が活用していけるかというところが大事だと思う。
- ・ 相談されたり気付いた先生が、何ができるのかということは、教育現場で問われていると思う。お子さんを中心に、お子さんの視点で見るという発想で寄り添えるような学校現場であってほしいと思う。
- ・ SOS を出す授業を高校 1, 2 年生に行った。SOS を出していいよ、苦しいときは相談していいよ、が「出さなくちゃいけないよ」という流れになるのがとても危険と思い、悩みを言えない自分は駄目な自分だ、というようなルートに入ることが危険だと思ったので、「自分で考えてもいいよ」というのを入れた。

- ・伝えるスキルがあるということと伝えられる環境にあるのかということは、また違う問題であり、黙っていても言いに来てくれるような言いやすい環境づくりを意識していくのがとても大事だと思った。
- ・スクリーニング会議をもう少し浸透させていただくと、全てのお子さんをきちんとチェックをしていく中で、変化に気づくことができる。その変化に対して、学校の担任だけではなくて学校全体としてどのように対応していくのかということとをみんなで考えていく。そしてそれを定期的にやっていくことで、その変化をちゃんと見極めていけるという意味では、スクリーニング会議は非常に有効だと考えている。
- ・今年の5月にNHKスペシャルを見た。いじめから逃げないというテーマ。大阪の吹田市が、市を挙げて市内の全小・中学校でいじめについて全力で取り組むというプログラムをやっていて、番組のスタッフが4ヵ月くらい学校に密着した内容だった。
- ・コロナ禍による交流の減少や家庭環境や学校環境での変化というものが、お子さんに影響を及ぼしていると思う。人と人との関わり方や付き合い方、それはいじめにも関係してくる。家庭内にいるからといって家庭の中でのコミュニケーションがうまくいっているかということ、必ずしも言えないところがある。

## 2 長野県学校支援チーム構成員による個別の支援（助言）

- |              |   |
|--------------|---|
| (1) 日時       | 令和5年8月18日（金）14：00～16：00                 |
| (2) 支援（助言）者  | 弁護士 倉崎 亜希子 先生                           |
| (3) 支援（助言）方法 | 対面（場所 長野県庁内）                            |
| (4) 要請者      | 県立高等学校 校長                               |
| (5) 同席者      | 心の支援課長 召田 誠<br>主任指導主事 向井 健太郎            |
| (6) 概要       | 特性を有する生徒による問題行動への対応について、法的な面から助言をいただいた。 |